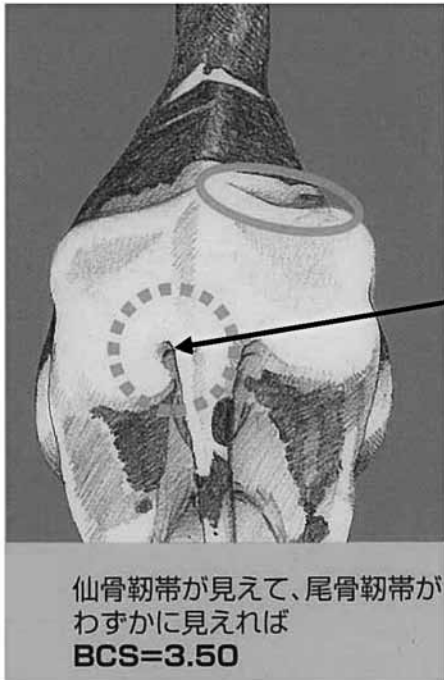


一般的な方法



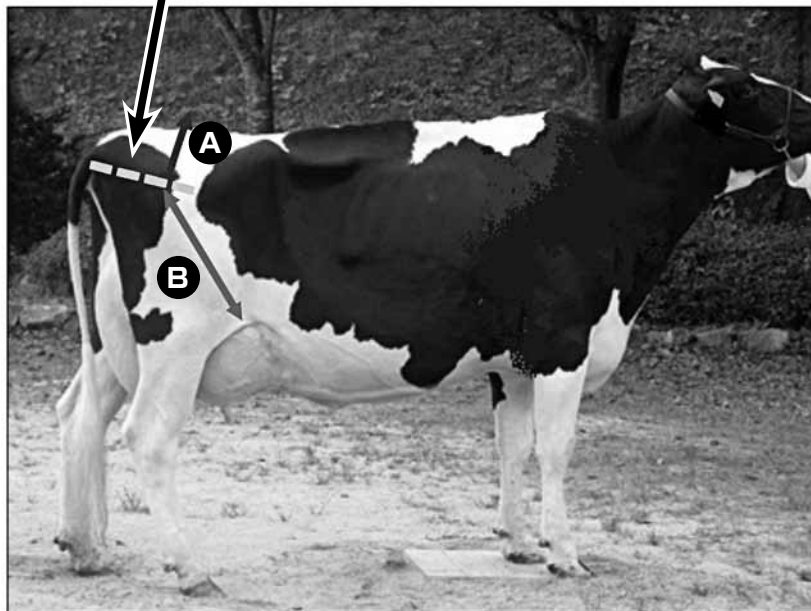
- ①鼻を取るならゆるくとり
- ②顎の下にロープを通して頭を下げ難くする。
(頭を上げた状態では蹴り難い)
- ③尾根部を搔く(人手がいます。反応すれば尾が上がります。
直検される方は良くおわかりかと)

ここを搔く

- ④キーパーを利用する際は牛に合わせて調節して使用する。基本は、寛(かん)から座骨端に伸びるライン上にキーパーの曲がり
が来るようにセットします。

上側(尾根までの距離A)も、下側(膝までの距離B)も牛によって異なるため、きちんと調節すれば牛をそんなに苦しませることなく脚を上げるのを制限できます。

(点線は寛から座骨端に伸びるライン)



「愛牛とは、ながーい付き合い」が理想

ファーストインプレッション、「第一印象」は非常に大事です。恐らく乳量、寿命に大きく影響し収益に跳ね返ってきます。最初は非常に面倒くさく、嫌がる牛のペースに合わせることは非常に大変なことです。

今年は、例年に比べて、人・牛共にアドレナリンを放出させない搾乳を念頭におかれ、愛牛に接して載くことをお願いさせて載きます。よろしくお願いします。

事件は現場で起きています



初産牛の搾乳「第一印象が大事」 人も牛も「アドレナリン」を 放出させない！

その②

広酪事業推進課 係長 大島達夫

分娩後の初搾りは？

分娩後の牛、特に「初産牛の搾乳」を行なう際にどのような様に行なわれているのでしょうか？乾乳軟膏等の問題もあり、いきなり通常のミルクカーでという方はあまりいらっしゃらないと思います。通常は手又はバケツミルクカーということになっています。

蛇足ですが、バケツミルクカーは非常に繊細で敏感で虚弱な状態の牛に使用されますが、衛生管理状態に加え、パルセーターやライナーの状態が良好な品は少ないように思われます。使用頻度は少ないのですが、

通常のミルクカーよりも良品である必要があることを念頭に置いていただきたいと思います。加えて、バケツミルクカーは高いパイプラインまで乳を持上げる必要がないため、結果的に通常の設定より高い真空圧が乳頭に加わることがあります。①整備、②洗浄と管理、③使用時に空搾りをしない。この3つを徹底して下さい。どちらが良いかということになれば、一概には言えず、一長一短があると思っています。

バケツミルクカーの長所

- 1 基本的に乳頭4本均等に搾乳できる。
- 2 時間的に早いため、『オキシトシン』が放出されていればその間に搾乳できる。
- 3 ちゃんと管理していれば衛生的に搾乳を行なえる。

問題は上記のように整備管理を疎かにした場合に多く発生しますが、最大の短所は、初めて搾乳機に接す

る初産牛に多い《怖い、痛い》ということになります。これは、『アドレナリン』を容易に放出させスムーズな搾乳を妨げるばかりでなく、一度、搾乳に対する恐怖を植付けられた牛は、搾乳の度に『アドレナリン』を放出させるようになり、一番乳量の高い時期にピークを迎えることなく低い乳量曲線でその乳期を終えてしまったりすることもあります。

手搾りの長所

- 1 牛の痛みが少ない。
- 2 初産からみれば、訳のわからない機械が身近になりことから怖さが減る。

これは『アドレナリン』を放出させる可能性を減少させ、搾乳に対する喜びを早く植付けます。短所は人間がしんどかったり牛が嫌がったりしたために、搾り易い乳頭を中心に搾ってしまう傾向があるため、分房毎に大幅な不均衡搾乳を行なうことがあります。又、

上げた足によって、折角の初乳の中にゴミが混入してしまい、価値を大きく減じてしまうこともあります。衛生的な初乳採取を心がけて下さい。

先の『アドレナリン』の考えから言えば、牛に『搾乳がいかにか気持ちの良いもの』と思わせるかが非常に重要です。人間の安全と、カウコンフォートの観念では最低限の拘束も必要ですが、搾乳における牛への拘束は必要最小限の期間と量に留めて頂きたいと思えます。